

医芸歌壇



宿題

東京 小松安彦

春前に春一番の吹きたれど夕べの寒き風に驚く
三月になりても冷たき雨の降り梅の花をば散らせてしまふ
赤き花並び咲きをり公演の椿の花とさざんくわの花
沈丁花香る宵なり散策にいろいろありし三月ふ
菜の花は今年も咲けり宿題の俳句いまだに推敲しをり

東日本大震災

神奈川 武井忠夫

昏るるまで障子閑ざさず眺めゐん吾がため咲きてくれあじさい
風の音にしづかに乗りて砂浜に寄りくる波としばしを語る

玉露入れどら焼き食みつつふと過ぎる不透明なるわが時間割
丈高き紅の芙蓉が風に揺れ夕べの予報は台風告ぐる

桜咲く季節となれどわが知己の店の閉鎖を聞くはさびしき

大災害

千葉 蒲谷玲子

〔寒〕

東京 初芝澄雄

もう狎れし地震速報ペランダに出れば眩しき春光るなり
万葉の花や如何にと訪ひし園被害ありとて閉ざされて居り

枕許避難準備をして眠る板につきたる戦中派吾

モールス信号手旗信号真剣に生も死もなき生徒でありき

灯火管制ふるき言の葉言い合ひて食事よく噛め今にして噛め

青山の通りを過ぎて赤坂に御用地ひだり坂下り行く
プリンスの白きビル面仰ぎ見て弁慶橋の片方に立ちぬ

紀尾井坂クロガネモチの実もたわわ黒き輝き見上げ上がりぬ
(仙石線・野原駅付近)

日本晴れ人影もなきバス停に立ちて仰ぎぬ古里の空
花咲いたしげぐと見る古里の吾が家の庭の紅白の梅

大震災

東京 林 宏 匡

被災地のテレビニュースを見つつみて自然を畏怖し祈る

詠ふには余りにおこき震災に心さらはれ声にも出でず

絶句とはかかる景かも大津波幾万の民を呑み込みにけり

残酷な自然の仕打ち幾万の民を選びて波に攫へり

震災の犠牲になりし人々を悼むか固き桜塲は

大地震

茨城 羽生 藤 伍

大地震グランドゴルフの皆たおれ芝生が裂けて黒水湧き来

地震来て二階瓦の長き棟崩れて屋根に散れる家々

地震にて落ちた大橋は一車線長き歴史の役を終えしか

一週後グランドの裂け目は噴き出せる白き砂にて被われにけり

晴れた日の天井裏にわが池の光と影の輪明滅止まず

旭山動物園

東京 横田 英 夫

雪面を飛ぶごと雪の流れ行くバス行き悩む美唄への道

エゾシカもまた狼もこの寒き粉雪の舞う大地に憩う

矢の様にす早く泳ぐ。ベンギンを仰ぎつつ行く水槽の下

人波の二手に分れどよめけり体揺らして。ベンギンの行進

よちよちと毛色変われる雛鳥の群追いて行く姿愛らし

夏季号の原稿募集要項

締め切り
7月8日(金)

平成7年(1995年)1月17日(火)に発生した阪神淡路大震災の惨禍もまだ記憶に残っているさ中、今回の東日本大震災。私たちのなかにも被害を受けた会員がおられます。

被災者でありながら、その一方で医師としての重い責務を果たされた活躍ぶりを見聞しました。1ヶ月を経て、まだ続く大型の余震。気持ちが落ち着く余裕はありませんが、大震災や災害の経験の有無は問いません。普段の心構えなども含めて原稿をお寄せください。

◇そのほか随想、俳壇・歌壇などは普段どおり。

.....

※冬季号の訂正 「ほん」 83頁中段5行目 衛

生樂教室・衛生學教室▽俳壇 84頁 下段 篠田

先生1句目 老杉を囲み若葉が層を成す。落葉

▽歌壇 86頁下段 小松先生3首目 年末のきた

りと仰ぐ冬の星座→星星▽同4首目 関東の大

お詫びして訂正します。

地震→大震災